



まっしぐら
農業驀地 —農業に夢を抱いて—

JAたきかわ青年部 部長 六田 達也さん

『住民の顔が見える広報』を目指し、地域おこし協力隊が
 まちに飛び出て市民の皆さんをクローズアップ!!!
 今回は親子三代に渡り共和町で農業に従事している六田達也さん。
 現在、JAたきかわ青年部部長も務めている六田さんの
 溢れんばかりの農業への熱い思いに耳を傾けます。

農業を始めたきっかけは？

子どものころから両親が農業
 をしていたので、『農業』は自
 分にとってすごく身近な存在で
 した。進路を考えるときにも
 誰に言われたわけでもありませ
 んが、自然と『農業がしたい』
 と考えるようになり、20歳から
 両親の仕事を手伝い始めました。

**これまでの農作業のなかで、
 印象的だった出来事は？**

天候の変化が大きく影響する
 仕事ですから、日によって予定
 が狂うこともしばしばあります。
 現在は米・麦・大豆・蕎麦をつ
 くっていますが、かつて『菜
 種油』を育てていたときは、天
 候が変わる前に作業を終わらせ
 る為に、ほぼ24時間ぶつ通しで
 作業し続けたこともありました。

大変ですね・・・



そうですね？(笑) 自分はそ
 うは思いません。どの仕事に就
 いても、大変で当たり前だと思
 うんです。お金を稼ぐことは、
 なにかしら苦労や大変なことと
 隣り合わせですからね。それが
 農業である以上肉体的な苦労で
 あっても、社員の人の苦労と

比較しても、大変さはたいして
 変わらないように感じます。

**農作物を作るうえで
 意識していることは？**

農家のエゴを消費者に押し付け
 ることの無いように、消費者の方
 のことを考えるようにしています。
 どれだけたくさんつくったって、
 消費者のニーズに合わなければ
 作物は売れませんし、経営も
 厳しくなってしまうから。
 感情に左右されることなく、目
 の前の作物と精一杯向き合うこ
 とに尽きると思います。

今後の目標は？

将来的には、いまの経営規模
 を維持したままひとりでも運営
 していけるようなシステムを確
 立していきたいです。

会社勤めだと定年があるけれ
 ど、農業(個人事業)っていく
 つになっても続けられますよね。
 これってとても大きな利点だと思
 うんです。自分も、いくつに
 なっても農業を続けていきたい
 ので、システムを構築して、よ
 り良い環境で農業ができればと
 考えています。
 今後、赤平で農業を続けら
 れるように頑張ります。



笑顔!
編集後記

地域おこし協力隊 まちの情報発信部門
 愛知県出身 野口 暢子



4月から放送がスタートし
 たドラマ「不便な便利屋」。
 市内各所にポスターが貼ら
 れていますね。本編中、見慣
 れた赤平の景色がたくさん
 登場するので、いつもワクワク
 しながら見えています^^!!



現在は、両親とともに3人で農業に従事している六田さん。
 親子の息が合った効率的な作業が印象的でした。